



感染症発生動向調査速報

2026年 第31週

令和8年7月27日～令和8年8月2日

送信先 感染症週報登録関係機関 担当者 様 送信日 令和8年8月6日(木)

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報 開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	26w	27w	28w	29w	30w	31w
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	0	0	0	0	0	0.00
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	0.33	1.67	3.33	2.67	0	2.00
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0	0	0	0.5	0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	0	0	0.5	0.5	0	0.00
	感染性胃腸炎	-	20	12	2	1.5	1.5	1.5	2	1.00
	水痘	1	2	1	1	0.5	1	0	0.5	0.00
	手足口病	-	5	2	0	0.5	0.5	3	5	5.50
	伝染性紅斑	-	2	1	0	0	0	0	0	0.00
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	1.5	0	1.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0.5	0	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	0	0	0	0	0	0.00
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ARI)	-	-	-	14.33	25.33	27.67	24.00	18.67	22.33

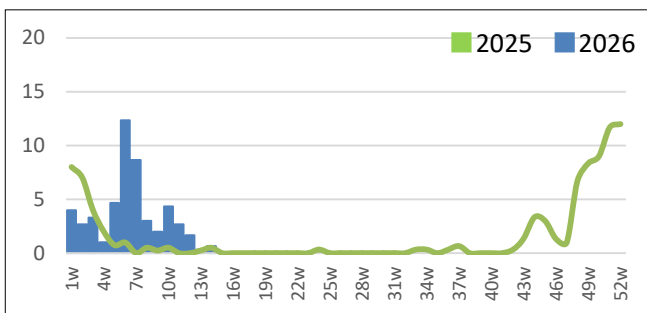


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

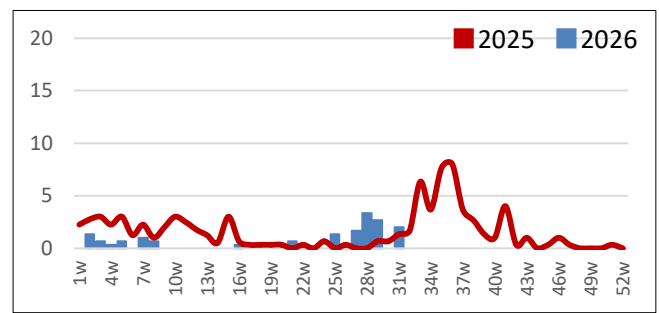


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

【通信欄】

〈管内／警報・注意報の発令〉

■ 五島保健所管内「手足口病」で警報発令

手足口病は口腔粘膜や四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。原因ウイルスによっては無菌性髄膜炎や脳炎を併発することもありますので早めの医療機関受診が推奨されます。

■ 五島保健所管内 第31週に「O-157」の発生届を受理

管内医療機関からO-157(VT1+) 1件の発生届を受理しました。現時点で感染の拡大は認めていませんが、温度・湿度共に高い日が続いていますので、日常的な手洗いや汚染食品等の取り扱いにはご注意ください。

〈長崎県からのお知らせ〉 8/4プレスリリース「腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう(詳細別添)」

■ 今年、県内では7/26迄に腸管出血性大腸菌感染症が 36 件発生。過去10年間の月別平均発生件数を上回っている状況。例年8月が発生のピークを迎えることから、ご注意いただきたい。

全国・県・五島の発生状況はホムナージ参照 <https://www.pref.nagasaki.jp/section/gt-h-kikaku/>
(お問い合わせ) 長崎県五島保健所 企画保健課 TEL0959-72-3125 担当:馬郡、福本



令和8年8月4日

長崎県福祉保健部地域保健推進課
担当：松本、田村
電話：095-895-2466 内線：4658

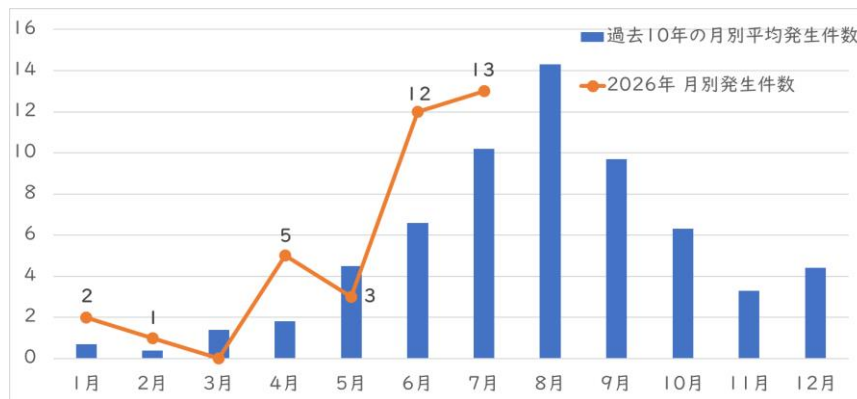
腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

今年県内では、7月26日までに腸管出血性大腸菌感染症が36件発生しています。本疾患は、例年8月をピークに発生数が増える傾向にあるので注意しましょう。

腸管出血性大腸菌は、汚染された食品や不適切な汚物処理などにより感染が広がることもあるので、感染予防のためには、家庭や保育施設等において、オムツ交換時や排便後・食事前の石けんによる手洗いの徹底等が重要です。

早期受診が重症化や二次感染を防ぐことにつながるため、自己判断で下痢止め薬を服用したりせず、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

1. 腸管出血性大腸菌感染症の県内発生状況（2026年7月26日時点）



診断年	2021	2022	2023	2024	2025	2026※
発生数	83	63	62	51	29	36
うち患者	56	51	41	40	23	25
うち無症状病原体保有者	27	12	21	11	6	11

※2026年は第30週（7/20-7/26）時点の累積報告数

2. 感染予防策等

- 調理や食事の前、トイレやオムツ交換の後などには、手洗いを流水と石けんにより丁寧に行い、清潔なタオルやペーパータオルで手を拭いて下さい。
- 肉や野菜などの生鮮食品は新鮮なものを購入し、消費期限又は賞味期限を守りましょう。また食肉は中心部まで十分に加熱してください。調理後は、すぐに食べるように心がけ、保存する場合には冷蔵庫に入れるようにしましょう。特に重症化しやすい乳幼児や高齢者は、生肉又は加熱不十分な食肉を食べないように注意しましょう。
- 汚染部分や人の手が触れる部分（ドアノブ等）は、汚れを取り除いた後、消毒用アルコールや塩素系消毒剤などを用いて丁寧に消毒しましょう。
- 感染した場合は、家庭内で広がるのを防ぐため、タオルの共用を避けるとともに、入浴は、シャワー浴とするか最後に入浴するようにしましょう。

腸管出血性大腸菌感染症

(Enterohemorrhagic *Escherichia coli* infection)

【特徴】

大腸菌は、動物や人の腸内にも存在し、そのほとんどは無害です。しかし、^{オー}O157をはじめ、そのいくつかは、ベロ毒素という強い毒素を産生し、腹痛や下痢、進行すると出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群、脳症など重篤な合併症を引き起こすことがあります。特に抵抗力の弱い高齢者や小児などでは注意が必要です。潜伏期間は2日から7日が多く、長いものでは12日におよぶこともあります。

【感染経路】

飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取するか患者の糞便で汚染されたものを口にすることが原因となります。このため人から人へと二次感染を起こすことがあり、食中毒としてだけでなく感染症として発症することがあります。

【症状】

主に水様性下痢と腹痛で発症し、数日内には血便がみられることもあり、多量・頻回に排出する場合も多く、嘔吐や38℃台の発熱を伴うことがあります。微量の菌でも感染するため、二次感染が起こりやすいとされています。ベロ毒素の作用により溶血性貧血、急性腎不全を来し、溶血性尿毒症症候群(Hemolytic Uremic Syndrome, HUS)を引き起こすことがあり、小児や高齢者では痙攣、昏睡、脳症などによって致命症となることがあります。

この情報提供は、腸管出血性大腸菌感染症に関する正しい知識の普及と注意喚起を目的とした広報活動です。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条及び第4条において求められているように、患者等の人権尊重には御配慮と御理解をいただきますようお願いいたします。

(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律)【抜粋】

第三条 国及び地方公共団体は、教育活動、広報活動等を通じた感染症に関する正しい知識の普及、感染症に関する情報の収集、整理、分析及び提供、感染症に関する研究の推進、病原体等の検査能力の向上並びに感染症の予防に係る人材の養成及び資質の向上を図るとともに、社会福祉等の関連施策との有機的な連携に配慮しつつ感染症の患者が良質かつ適切な医療を受けられるように必要な措置を講ずるよう努めなければならない。この場合において、国及び地方公共団体は、感染症の患者等の人権を尊重しなければならない。

第四条 国民は、感染症に関する正しい知識を持ち、その予防に必要な注意を払うよう努めるとともに、感染症の患者等の人権が損なわれることがないようにしなければならない。

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第31週 2026年7月27日(月)～2026年8月2日(日) 2026年8月6日作成

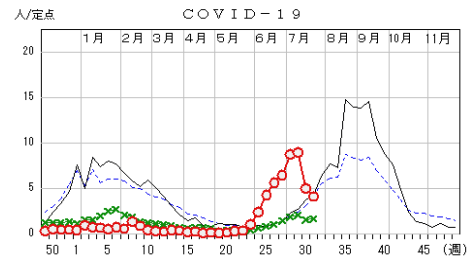
☆定点※報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) 新型コロナウイルス感染症

第31週の報告数は210人で、前週より46人少なく、定点当たりの報告数は4.12であった。

年齢別では、2歳(33人)、1歳(29人)、3歳(21人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所(6.60)、長崎市保健所(5.91)、県北保健所(5.67)であった。

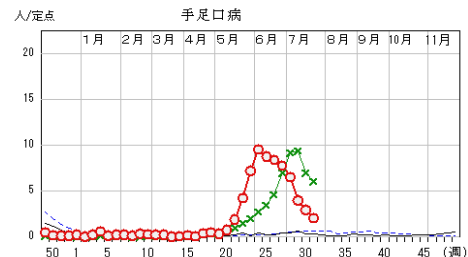


(2) 手足口病

第31週の報告数は63人で、前週より27人少なく、定点当たりの報告数は2.03であった。

年齢別では、1歳(26人)、1歳未満(13人)、2歳(11人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、五島保健所(5.50)、長崎市保健所(4.17)、上五島保健所(2.50)であった。

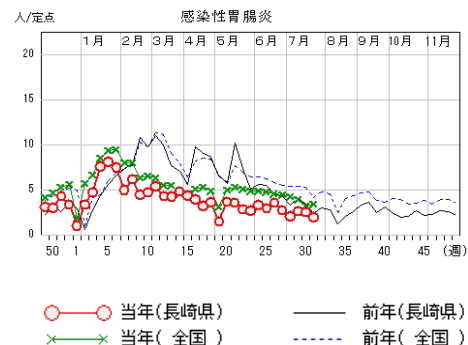


(3) 感染性胃腸炎

第31週の報告数は62人で、前週より17人少なく、定点当たりの報告数は2.00であった。

年齢別では、1歳(10人)、2歳(7人)、8歳(7人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所(4.33)、長崎市保健所(3.67)、佐世保保健所(2.25)であった。



※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第31週の報告数は210人で、定点当たり報告数は4.12でした。地区別にみると、県南地区(6.60)、長崎地区(5.91)、県北地区(5.67)は他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【手足口病】

第31週の報告数は63人で、定点当たり報告数は2.03でした。県全体では7週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が継続しています。地区別では、五島地区（5.50）、長崎地区（4.17）、県南地区（2.33）は警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【感染性胃腸炎】

第31週の報告数は62人で、定点当たりの報告数は2.00でした。地区別にみると、西彼地区（4.33）、長崎地区（3.67）、佐世保地区（2.25）は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

夏期休暇を利用して海外へ渡航される方が増えることが予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ（海外へ渡航される皆様へ）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

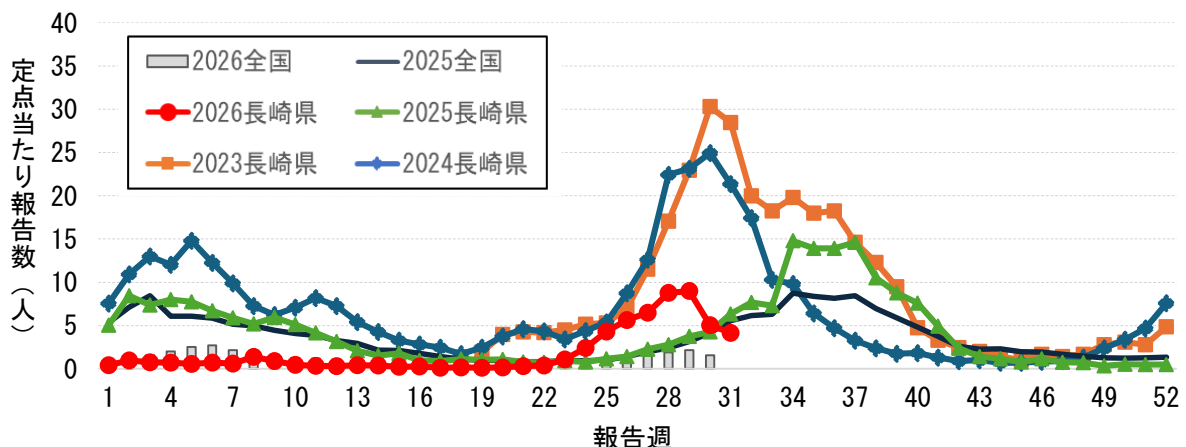
新型コロナウイルス感染症の長崎県における第31週の定点当たり報告数は「4.12」で、2週続けて減少しました。

年代別では、10歳未満（68%）、10代（13%）の順に多く、14歳以下で約8割を占めています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

詳細は長崎県感染症情報センターホームページ「新型コロナウイルス感染症」に掲載しています。

新型コロナウイルス感染症 定点当たり報告数推移



☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

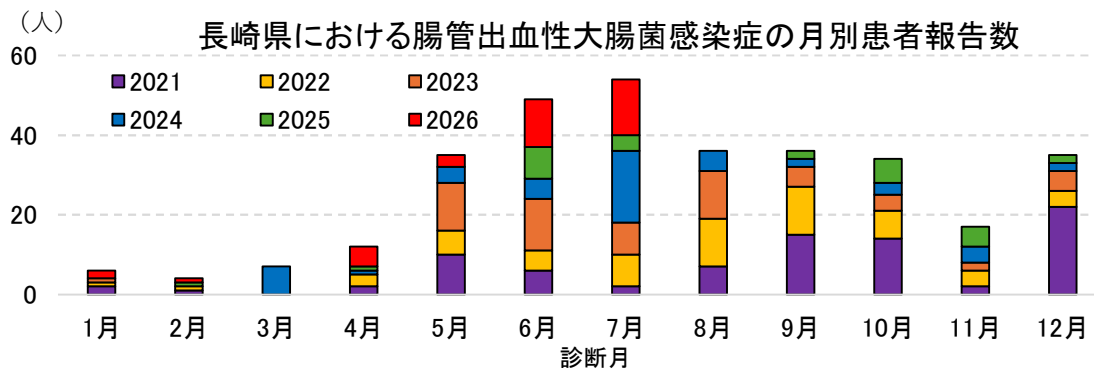
例年8月をピークに発生数が増加する傾向にあることから、8月4日に県地域保健推進課より注意喚起の情報が出されました。

今後も次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴し

●長崎県地域保健推進課（腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう）

<https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/50981.html>

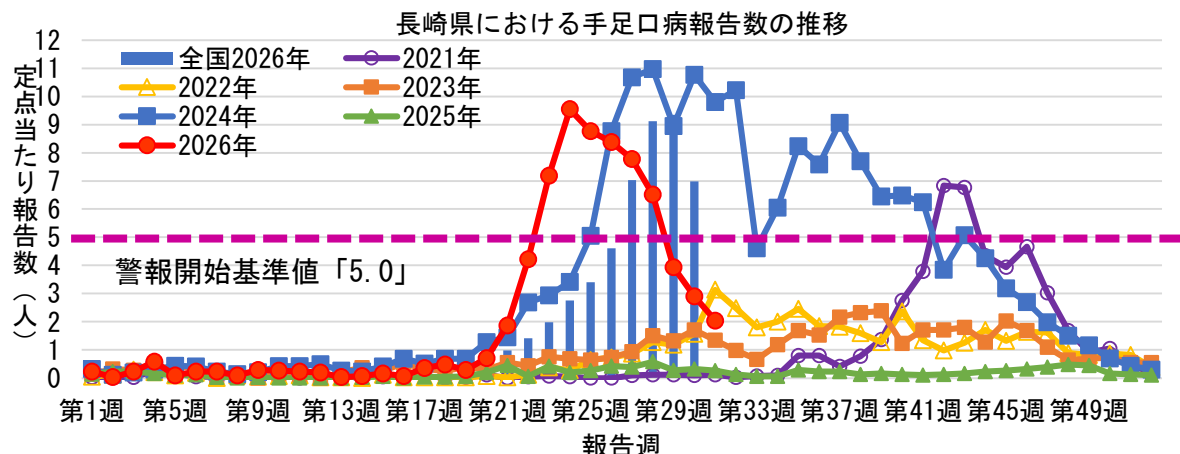


☆トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第31週の定点当たり報告数は「2.03」で7週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が9週間継続しています。五島地区（5.50）、長崎地区（4.17）、県南地区（2.33）は、警報レベルの報告数となっています。年齢別では、2歳以下で全体の約8割を占めています。今後も手洗いを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（40代・1名） 女性（80代以上・1名）
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（70代・1名）
 4類感染症：報告なし
 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（50代・1名）
 侵襲性肺炎球菌感染症 患者 女性（40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別・週別発生状況 （第26～31週、6/22～8/2）

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数					
	26週	27週	28週	29週	30週	31週
	6/22～	6/29～	7/6～	7/13～	7/20～	7/27～
インフルエンザ		0.55	0.06	0.73	0.41	0.69
新型コロナウイルス感染症	5.63	6.45	8.76	8.98	5.02	4.12
RSウイルス感染症	1.87	1.42	1.90	1.48	0.90	0.87
咽頭結膜熱	0.58	0.48	0.45	0.45	0.32	0.48
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.26	2.23	1.71	1.42	0.94	1.74
感染性胃腸炎	3.61	2.74	2.06	2.65	2.55	2.00
水痘	0.48	0.23	0.94	0.19	0.35	0.19
手足口病	8.39	7.77	6.52	3.94	2.90	2.03
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.06	0.06	0.06	0.13	0.06
突発性発しん	0.35	0.16	0.39	0.29	0.26	0.35
ヘルパンギーナ	1.10	1.13	1.26	1.26	0.65	1.10
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.06	0.06		0.06	0.06	
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	0.63	1.50	0.88	1.50	0.63	0.75
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎		0.08				
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.08	0.08	0.42	0.17	0.25
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）					0.08	
急性呼吸器感染症（ARI）	54.51	56.84	56.76	59.08	45.88	50.24

（2） 疾病別・保健所管内別発生状況 （第31週、7/27～8/2） ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.69	0.43	1.09			0.63	2.80	0.33			
新型コロナウイルス感染症	4.12	3.14	5.91	4.00	5.00	2.63	6.60	5.67	2.00	1.33	1.67
RSウイルス感染症	0.87	2.00	0.83			0.40		6.00			
咽頭結膜熱	0.48	0.50	0.50		0.33	0.40		<u>3.00</u>			0.50
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.74	5.25	0.83		0.67	1.20	5.33	2.00			
感染性胃腸炎	2.00	2.25	3.67	1.50	4.33	1.20	1.00	2.00	1.00		
水痘	0.19	0.25						0.50		<u>2.00</u>	
手足口病	<u>2.03</u>		<u>4.17</u>		1.67	1.40	<u>2.33</u>	1.50	<u>5.50</u>	2.50	
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.06	0.25	0.17								
突発性発しん	0.35	0.25	0.33		0.33	0.60	0.33	1.50			
ヘルパンギーナ	1.10	1.25	2.00			0.40	<u>3.33</u>	1.00	1.00		0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.75		1.33		2.00						
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.25	2.00			1.00						
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	50.24	48.71	92.00	22.67	60.40	52.25	26.20	35.67	22.33	18.67	20.00